

6.3 爬虫類・両生類



(1) 県内の爬虫類・両生類の概要

富山県は平野部、山地、標高3,000mを超す高山まで多様な環境がある。爬虫類・両生類はともに変温動物のため、県内では標高1,500mを超すと生息する種は限られる。爬虫類のカメ類は水辺や水中で生活し、トカゲ類やヘビ類は陸上で生活する。両生類は主に水中で産卵し、普段は水辺（一部水中）や陸上で生活する。このように分類群や種によって、産卵環境や生息環境が異なるため、保全の在り方はそれぞれの種に適合するように進めて行く必要がある。

富山県の陸生の爬虫類は、外来種を含め15種（カメ類4種、トカゲ類3種、ヘビ類8種）が生息している。カメ類は陸上で産卵し、生活場所は水中である。生息地の川の護岸工事、川底の整地、堰堤の設置、池の改修や水抜き等が生息に影響を及ぼしていると考えられる。トカゲ類とヘビ類は平野部から山地に広く生息しているが、農地整備や水田の放棄、開発等による生息地の消失が進行し、生息環境が悪化している。

富山県の両生類は、外来種も含め19種（有尾類6種、無尾類13種）が生息している。両生類は主に水中で産卵し、幼生も水中で成長するため水環境は両生類の生息にとって重要な環境要素である。産卵場所を中心にその周辺に生息する。県下全域にわたり、里山における開発の進行や水田の放棄、山地の開発、谷川の砂防堰堤や林道建設、平野部の水田の整備（特に用水路）、池の改修等により、両生類の産卵場所や生息場所の分断や消失が進行している。種によっては保護地域の設定等の対策が必要になっている。

(2) 選定評価の方法

選定にあたっては、富山県に生息する爬虫類15種、両生類19種のすべての種を対象とした。選定に必要な情報は、前回改訂の2012年以降の文献調査と令和6年度に実施した現地調査の情報を参考とした。得られた情報を元にワーキンググループで検討し、種の分布特性、過去の記録と現在の生息状況との比較、将来の予測などを踏まえ、選定種の決定、カテゴリー変更、新規選定作業を行った。

(3) 選定種の概要

前回の選定11種（爬虫類4種、両生類7種）に両生類1種（ニホンアカガエル）を追加し、2種（ニホンイシガメとナガレヒキガエル）は共に絶滅危惧II類から絶滅危惧I類にランクアップした。ニホンイシガメは県内の生息地が限られ、加えて個体数も少ない。ナガレヒキガエルは県内の生息地が限られ、さらにアズマヒキガエルとの交雑による雑種化が進行している。ニホンアカガエルは、県内の里山の水田周辺に生息する代表的なカエルであるが、生息環境悪化のため生息地の消失や個体数の激減が見られ、新規に準絶滅危惧として選定した。

(4) 絶滅の危機に追い込んでいる要因（減少要因）

富山県に生息する爬虫類や両生類を絶滅の危機に追い込んでいる要因は、生息環境の変化、破壊に他ならない。大規模な開発や河川改修等だけでなく、小さな開発（ため池の埋め立てや護岸整備、農業用水路の改修、道路の造成等）の積み重ねが多くの種の行動域や繁殖場所を奪っている。さらに、里山の水田の放棄が各地で進み、水田周辺にすむ両生類の産卵場所や生息場所の消失や個体数の減少

につながっている。

(5) 種のリストの整理基準

爬虫類・両生類の和名および学名は、日本爬虫両棲類学会の日本産爬虫両生類標準和名リストに準拠した。

(6) 謝辞・協力者

今回の改訂にあたり、次の方々から貴重な情報の提供および調査にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。(五十音順、敬称略)

飯田 肇、石須秀和、泉 拓朗、井出いづみ、井出哲哉、井出ゆきの、稻村 修、岡部 亮、
加藤朋美、加藤優作、川上僚介、木村知晴、後藤優介、齋藤真里、佐伯麻美、佐伯ゆきみ、
酒井義孝、澤田昭芳、白石俊明、高橋輝男、中田達哉、西尾正輝、不破光大、増田国男、
屋敷祐生、山崎裕治、富山河川国道事務所

(文責：福田 保)

ニホンイシガメ (カメ目・イシガメ科) *Maurermys japonica*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息地は限られ、生息環境は悪化している。

形態

背甲長は最大で雄 130mm、雌で 200mm ぐらい。甲は鱗板で覆われている。背甲は茶褐色から黄褐色。腹甲は黒い。背中線上には不連続な隆条がある。背甲の後縁は鋸歯状。

国内の分布状況

本州、四国、九州及び佐渡島、淡路島等の島嶼に分布する。東北地方には自然分布しないとされる。日本固有種。

県内の分布状況

丘陵の小規模な河川や池、平野部の限られた河川でも見られる。生息地はかなり少なく、個体数も少ない。

生態・生息環境

河川や湖沼等に生息する。水中で越冬し、繁殖期は 5 月末から 8 月初旬に 1~3 回、1 回あたり 1~12 個産卵する。食性は雑食性で、陸上の植物や、貝、昆虫、甲殻類、魚類等。

生存への脅威（減少の要因）

河川、池沼の改修による護岸のコンクリート化により、川の淀みや土手が無くなり生息場所や繁殖地の消失が危惧される。近年の大雨による洪水の影響が懸念される。本種とクサガメ（外来種と考えられている）が同所的に生息している場所では餌の競合や、両種の交雑による雑種が生じること等が危惧される。特定外来生物のアライグマが県内で確認されるようになり、アライグマによる本種の捕食が知られていることから、本種の捕食が懸念される。

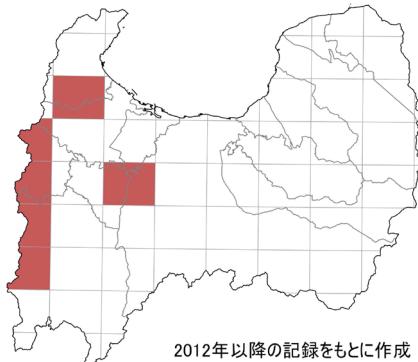
保全対策

生息地の河川や池の改修工事等にあたり、本種の生息環境に配慮した工事等が求められる。

特記事項

県内では、野外の川でウンキュウ（クサガメとニホンイシガメの交雑個体）が確認されている。

撮影：福田 保



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：南部 久男）

ハクバサンショウウオ (有尾目・サンショウウオ科) *Hynobius hidamontanus*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内では限られた地域に生息し、生息環境の悪化が危惧される。

形態

全長は 75~105mm、頭胴長は 41~61mm。背面は紫がかった褐色で淡黄色の小斑点が密布する。腹面には銀白色の小点を密布し、地衣状斑紋をなす。肋条は 11~13 本。前肢と後肢を体側に沿って曲げると指間に 1.5~2 肋皺分の隙間ができる。後肢は 4 趾性。卵のう外皮に縦の条線はない。

国内の分布状況

中部地方の長野県、新潟県、富山県、岐阜県の山地に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

県内では主に山地に生息するが、生息地は限られる。山麓の生息地が僅かに知られている。

生態・生息環境

山地の林にすむ。4 月中旬から 5 月上旬に、浅い湿原や森林の細流の淀みで、1 対の卵のうを枯れ葉や小枝などに産み付ける。1 対の卵のう中の卵数は 30~76 個。幼生は水中で越冬するものもいる。食性は主にミミズ等。

生存への脅威（減少の要因）

山地の開発や林道整備等により生息地の分断や生息環境の悪化が危惧される。

保全対策

生息地の森林と産卵環境の保全が求められる。

特記事項

中国地方（兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県）に生息するヒバサンショウウオ (*Hynobius utsunomiyaorum*) とは形態的にも遺伝的にも近いことが知られている。ハクバサンショウウオは、富山県の指定希少野生動植物、環境省の国内希少野生動植物種に指定されている。

撮影：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：南部 久男）

ホクリクサンショウウオ (有尾目・サンショウウオ科) *Hynobius takedai*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IB 類

選定理由

県内では極めて限られた地域に生息し、生息域の多くで環境の悪化と生息地の消失が進行している。

形態

全長は 76~124mm、頭胴長は 46~67mm。背面は、雄は黒褐色、雌は黄褐色のことが多い。肋条は通常 12 本。前肢と後肢を体側に沿って伸ばすと指間に 0.5~2 肋皺分の隙間ができる。後肢は 5 趾性。

国内の分布状況

富山県と石川県能登半島に限って分布する。日本固有種。

県内の分布状況

県中央部と西部の丘陵に限られる。

生態・生息環境

丘陵や低山の林に生息する。繁殖期は 1 月下旬から 4 月上旬で、丘陵の池や湿地、山際にある水田の溝、林道の側溝などに産卵する。卵のうは透明な紐状で表面に条線はない。雌は 1 対の卵のうを水中の植物の茎や枝等に産み付ける。1 対の卵のう中の卵数は 26~148 個。幼生は水中で越冬するものもいる。食性は主にミミズや巻貝等。

生存への脅威（減少の要因）

生息域では、様々な開発、里山の水田の耕作放棄等が県内各地で進行しており、生息環境が極めて悪化している。近年の大雨による生息地の土砂崩れが懸念される。アライグマによるサンショウウオ類の捕食が知られていることから、本種の捕食が懸念される。

保全対策

生息地の森林の保全、繁殖場所の池や水田周辺で産卵しやすいような環境整備が望まれる。生息地や産卵場所の消失が前回の策定時よりさらに進行しており、本種の保護地域の設定が望まれる。近年の遺伝子研究により、県中央部と県西部を含む石川県側とは別のグループ（クレード）であることが判明しているため、このことに配慮した保全対策が必要である。

特記事項

県内的一部の生息地では、本種の調査と保全活動が保護グループ等により継続的に行われている。本種は、富山県の指定希少野生動植物に指定されている。
(文責：南部 久男)

ナガレヒキガエル (無尾目・ヒキガエル科) *Bufo torrenticola*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧 I 類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

限られた地域に生息し、生息環境は悪化し、本種とアズマヒキガエルとの雑種化が進行している。

形態

体長は雄で 70~121mm、雌で 88~168mm。体色は変異に富む。背面は橙黄褐色、灰褐色又は褐色。鼓膜は小さく不明瞭で、皮膚の下に隠れることが多い。四肢は長い。幼生の口は大きい。

国内の分布状況

本州中央部（中部地方西部と近畿地方の一部）の山地に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

山地に生息するが、東部の生息地は少ない。日本海側の本種が生息する県（福井県、石川県、富山県）では富山県東部が東限である。

生態・生息環境

山地に生息し、繁殖期は 4~5 月で、2,500~4,000 個の卵が入った長い紐状の卵のうを渓流の水底の岩石や倒木などに巻き付けて産む。

生存への脅威（減少の要因）

渓流の工事や砂防工事等により、産卵環境の悪化が危惧される。産卵環境の変化が、本種とアズマヒキガエルとの雑種形成をもたらしている可能性がある。県内ではかつては生息していなかったイノシシが低山から山地に広く生息するようになり、イノシシによるヒキガエル属の捕食が知られており、本種の捕食が懸念される。

保全対策

本種の生息場所や産卵環境に配慮した林道の工事や渓流の工事等が求められる。

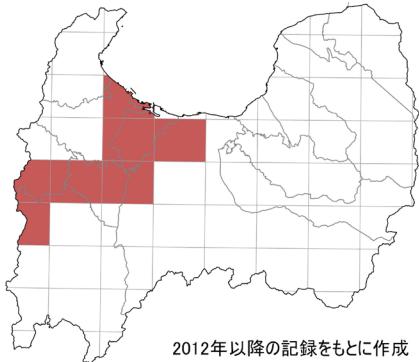
特記事項

本種とアズマヒキガエルの雑種が県内の数地域の渓流で確認されている。

(文責：南部 久男)



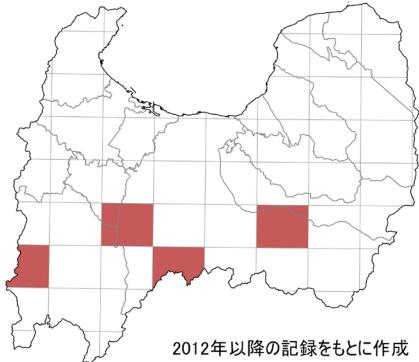
撮影：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成



撮影：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

ナガレタガエル (無尾目・アカガエル科) *Rana sakuraii*

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧II類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の生息地は限られている。

形態

体長は雄で 38~56mm、雌で 43~65mm。体色は暗褐色、橙黄褐色と変異が大きい。水かきが非常に発達している。繁殖期の雄は、体側の皮膚が伸び膜状に大きく広がる。

国内の分布状況

本州の中西部（関東、中部、北陸、近畿、中国地方）の山地に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

県内の山地で主に成体が確認されているが、記録は少ない。

生態・生息環境

山地に生息する。秋頃から水中の岩の下で越冬し、産卵期は 2~4 月で、130~250 個の白い卵の塊を谷川の淀みや淵に産む。タガエルと同所的に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

林道や渓流の工事による生息環境や産卵環境の悪化が危惧される。

保全対策

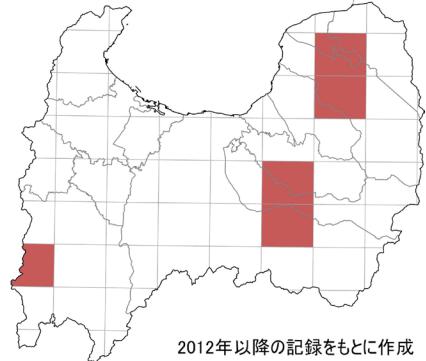
本種の生息環境や産卵環境に配慮した林道工事や渓流の工事が求められる。

特記事項

県内における本種の繁殖状況は分かっていない。



撮影:澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：南部 久男）

タカチホヘビ (有鱗目・タカチホヘビ科) *Achalinus spinalis*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内における記録は限られ、生息環境が悪化している。

形態

頭胴長は 18~40cm ほど。尾長は体長の 20~35% ぐらい。背面は褐色又は暗黄褐色。体全体に光沢がある。背面の正中線上の 1 列の鱗は黒い。

国内の分布状況

本州、四国、九州とその周辺の島嶼に分布する。中国南東部にも分布するとされる。

県内の分布状況

低地から山地まで生息するが、記録は少ない。

生態・生息環境

低地から亜高山の林に生息する。夜行性。日中は人目に触れる機会は比較的小ない。繁殖期は 5~7 月で、一度に 3~13 個産卵する。食性は主にミミズ等。

生存への脅威（減少の要因）

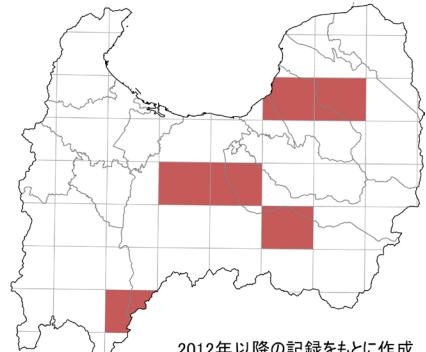
森林整備や道路整備による生息環境の悪化が危惧される。イノシシによるヘビ類（種不明）の捕食が知られており、イノシシによる本種の捕食が懸念される。

保全対策

生息環境に配慮した森林整備や道路整備が求められる。



撮影:澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

（文責：南部 久男）

シロマダラ (有鱗目・ナミヘビ科) *Lycodon orientalis*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内における記録は限られ、生息環境が悪化している。

形態

頭胴長は 240~600mm ほど。尾長は体長の 20~25% ぐらい。背面は淡灰褐色。胴と尾にはっきりとした黒褐色の横帯がある。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州とその周辺の島嶼に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

低地から山地にかけ生息する。低地の建物の近くで発見されることがある。

生態・生息環境

夜行性で、日中は倒木や石の下等に隠れている。繁殖期は 6~8 月で、一度に 1~9 個産卵する。食性は主にトカゲや小さなヘビ等。

生存への脅威（減少の要因）

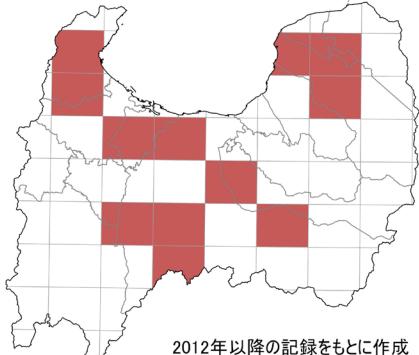
森林整備や道路整備による生息環境の悪化が懸念される。イノシシによる本種の捕食が懸念される。

保全対策

本種の生息環境に配慮した森林整備や道路整備が求められる。



撮影：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：南部 久男)

ヒダサンショウウオ (有尾目・サンショウウオ科) *Hynobius kimurae*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

生息環境の悪化が見られる。

形態

全長は 102~175mm、頭胴長は 57~102mm。背面は紫褐色で不規則な細かい黄色の斑点があるが、斑点がないことも多い。四肢は短く、前肢と後肢を体側に沿って曲げると指先の間に 0.5~3 肋皺分の隙間ができる。肋条は 13 本。後肢は 5 趾性だが 4 趾のものもいる。尾は円筒形。幼生は黒い爪をもつ。

国内の分布状況

本州の愛知県西部、長野県、新潟県以西に生息する。日本固有種。

県内の分布状況

低山から山地にかけ分布する。

生態・生息環境

山地の山林に生息する。降雪期前に渓流の源流近くで越冬し、繁殖期は 1 月下旬から 4 月頃で、水中の岩の下面にバナナのような形をした外皮が丈夫な 1 対の卵のうを産み付ける。1 対の卵のう中の卵数は 11~47 個。幼生は水中で越冬するものもいる。食性は主に昆虫やミミズ等。

生存への脅威（減少の要因）

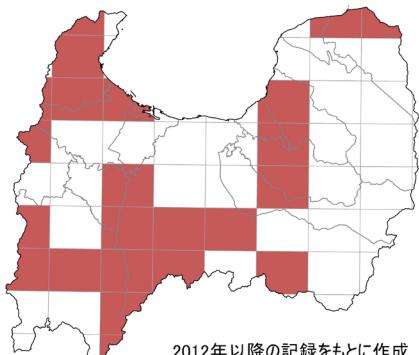
林道整備や森林整備、砂防工事等による生息場所や産卵場所の消失や幼生の生息環境の悪化が危惧される。

保全対策

本種の生息環境に配慮した林道工事、森林整備、砂防工事が求められる。



撮影：澤田 研太



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：南部 久男)

アカハライモリ (有尾目・イモリ科) *Cynops pyrrhogaster*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

低地から山地の水辺に広く分布していたが、生息地が減少し、特に平野部で著しい。

形態

全長 70~140mm。頭胴長は 35~70mm。体色や体形は変異が大きい。背面は黒色または黒褐色、腹面は赤く不規則な黒斑をそなえる。繁殖期の雄は灰青色の婚姻色があらわれる。

国内の分布状況

本州、四国、九州、佐渡島、隱岐島、壱岐、大隅諸島などに分布する。日本固有種。

県内の分布状況

低地から山地の水田周辺、池、湿地等に広く分布するが、平野部ではほとんど見かけない。

生態・生息環境

低地から山地の水田、池、渓流、溝などに見られる。繁殖期は 4~7 月頃まで。卵は池や水溜まり等の水草に 1 個ずつ産み付けられる。食性は肉食性でオタマジャクシ、ミミズ、水生昆虫等。

生存への脅威（減少の要因）

低地では農業基盤整備により、丘陵や低山では開発、水田の耕作放棄等により、生息地や産卵場所の消失が危惧される。

保全対策

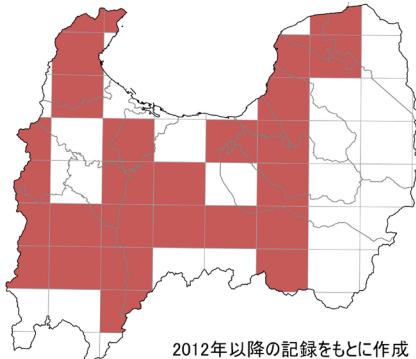
生息地の池や湿地、水田周辺の水辺環境の保全が求められる。

特記事項

日本各地で本種の遺伝的な分化が進んでいる。



撮影：福田 保



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：南部 久男)

ニホンアガエル (無尾目・アガエル科) *Rana japonica*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

県内の丘陵や低山を代表するカエルであるが、生息地の減少が進行している。

形態

体長は雄 34~63mm、雌 43~67mm。背面は褐色または赤褐色で、黒っぽい斑点が少数散在する。目から体側に伸びる背側線はほぼ直線的である。

国内の分布状況

本州、四国、九州、壱岐、大隅諸島に分布する。日本固有種。

県内の分布状況

主に丘陵や低山に生息し、県東部では少ない。低地（平野部）で見かけることはほとんどないが、県西部の一部の地域では山麓からやや離れた低地の水田周辺にも見られることがある。

生態・生息環境

平地から丘陵の水田や湿地にみられ、山地では少ない。繁殖期は 12~4 月で、水田や水溜まりなどに 500~3,000 個くらい産卵する。

生存への脅威（減少の要因）

丘陵や中山間地域における水田の耕作放棄や開発のため、産卵場所や生息場所の消失が危惧される。アライグマによるカエル類の捕食が知られるところから、丘陵等に生息する本種の捕食が懸念される。

保全対策

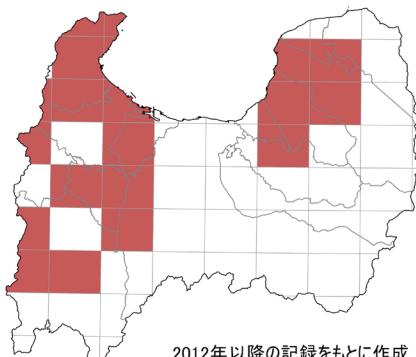
生息地の産卵場所や周辺の草地や林の環境整備が求められる。

特記事項

本州では、東北地方と本州西南部で遺伝的な分化が進んでいる。



撮影：福田 保



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：南部 久男)

トノサマガエル (無尾目・アカガエル科) *Pelophylax nigromaculatus*

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の水田を代表するカエルであるが、平野部を中心に生息地の消失や減少が進行し、特に県東部で著しい。

形態

体長は雄で 38~81mm、雌で 63~94mm。背面は緑色、褐色、淡灰褐色または黄色みを帯びた白色。雄では黒色又は黒褐色の斑紋はあまり明瞭ではないが、雌では斑紋は拡がってつながり黒っぽく見える。真っすぐな背中線とはっきりとした背側線が見られる。



撮影：澤田 研太

国内の分布状況

本州（関東から仙台平野にはトウキョウダルマガエルが生息し、本種は生息しない）、四国、九州、種子島、朝鮮半島、中国などに広く分布する。

県内の分布状況

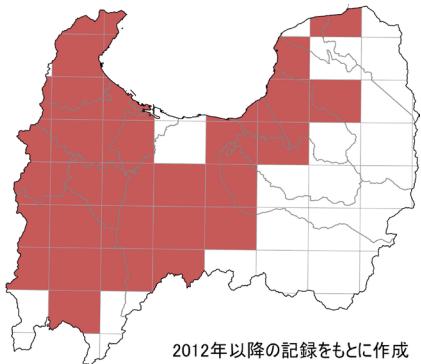
県内の平野部から丘陵、中山間地の水田や池等に広く分布するが、平野部では少なくなり、特に県東部ではほとんど見かけなくなった。

生態・生息環境

低地から低山の水田や池、河川等に見られる。繁殖期は 4 月上旬～6 月下旬で、水田等で 800～3,000 個の卵を塊で産む。

生存への脅威（減少の要因）

平野部では農地整備、宅地化による水田の減少、用水のコンクリート化等により、生息地が激減している。中山間地では水田の耕作放棄により、生息地が消失しているところが多い。アライグマによる丘陵等に生息する本種の捕食が懸念される。



2012年以降の記録をもとに作成

保全対策

本種の生息環境や産卵環境に配慮した農地整備等が求められる。

特記事項

中部地方の日本海側（新潟県南西部、富山県、石川県、福井県）には、高田型と名付けられた地方型が基本型に混じって見られる。

（文責：南部 久男）

ニホンスッポン (カメ目・スッポン科) *Pelodiscus japonicus*

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

記録が少なく、情報が不足している。

形態

背甲長は最大で 300mm ぐらい。背甲は緑褐色から灰褐色。背甲と腹甲は柔らかい皮革状の皮膚で覆われている。頸が長く吻端がよく突出している。四肢は太く短い。指間にはみずかきがよく発達する。

国内の分布状況

日本、極東ロシア、朝鮮半島、中国、台湾などに広く分布する。日本では、本州以南に生息する（琉球列島のものは人為的に持ち込まれた）。日本では明治時代から養殖が行われている。

県内の分布状況

平野部や丘陵等の河川や山麓の池で確認されているが、記録は少ない。県内では養殖されていた収穫量の統計がある。

生態・生息環境

河川や湖沼などに生息する。産卵期は 5~7 月で、1 度に 20~50 個くらい産卵する。食性は肉食性の傾向があり、貝、甲殻類、昆虫、魚類、両生類などを捕食するが、植物質のものも食べる。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修等により、コンクリートの護岸化や川底の整備が進み、生息環境の悪化が危惧される。

保全対策

生息地の河川改修や池の改修にあたり、本種の生息環境に配慮した工事が求められる。

特記事項

日本のスッポン属には、在来のニホンスッポンと外来のチュウゴクスッポン *Pelodiscus sinensis* が知られている。

（文責：南部 久男）

=参考・引用文献=

- 1) 福田 保・澤田研太・堺 康浩・南部久男, 2013. 仏生寺川の両生類・爬虫類. 富山の生物, (52) : 45-52.
- 2) 福田 保・澤田研太・南部久男, 2014. 富山市黒川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (53) : 41-45.
- 3) 福田 保・澤田研太・南部久男, 2015. 山田川(南砺市)の両生類・爬虫類. 富山の生物, (54) : 73-80.
- 4) 福田 保・澤田研太・南部久男, 2016. 下条川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (55) : 41-46.
- 5) 福田保・澤田研太・南部久男, 2017. 郷川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (56) : 40-44.
- 6) 福田 保・澤田研太・亀谷三志・南部久男, 2018. 泉川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (57) : 40-42.
- 7) 福田 保・草間 啓・亀谷三志・澤田研太・南部久男, 2019. 富山市野積川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (58) : 32-35.
- 8) 福田 保・草間 啓・亀谷三志・澤田研太・南部久男, 2020. 南砺市小矢部川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (59) : 33-36.
- 9) 福田 保・澤田研太・南部久男, 2021. 朝日町笛川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (60) : 29-33.
- 10) 福田 保・草間 啓・亀谷三志・澤田研太・南部久男, 2022. 氷見市宇波川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (61) : 31-36.
- 11) 福田 保・草間 啓・亀谷三志・澤田研太・南部久男, 2023. 富山市山田川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物, (62) : 33-40.
- 12) 福田 保・草間 啓・亀谷三志・澤田研太・南部久男, 2024. 子撫川流域(小矢部市・高岡市)の両生類・爬虫類. 富山の生物, (63) : 25-32.
- 13) 後藤康人, 2018. 日本で2番目に古いスッポン養殖の話～福田養殖場 福田泰昌氏聞き書き～. 亀楽, (16) : 10-14.
https://www.city.kobe.lg.jp/documents/63492/kiraku_no18s.pdf(2024年11月30日確認).
- 14) 伊藤 隼・佐藤 真・山崎裕治, 2022. 痕跡調査とカメラトラップ調査に基づく富山県における特定外来生物アライグマ(*Procyon lotor*)の生息状況. 哺乳類科学, 62(2) : 247-255.
- 15) Iwaoka, Y., Watanabe, T., Satoh, S.S., Nambu, H., Yamazaki, Y. 2021. Hybridization of two species of Japanese toads, *Bufo torrenticola* and *Bufo japonicus formosus*, in the central part of Japan. Zoological Science, 38(6): 506-512.
- 16) 岩岡優真・山崎裕治, 2023. ナガレヒキガエル *Bufo torrenticola*の生息状況と出現に影響を及ぼす環境要因の予測. 日本奥山学会誌, 10 : 8-23.
- 17) 亀谷三志・澤田研太・井出哲哉・西岡 満・酒井義孝・井出いづみ・井出ゆきの・草間 啓・加藤朋美, 2025. 富山県におけるホクリクサンショウウオの分布と繁殖地の概況. 富山の生物, (64) : 125-130.
- 18) 亀谷三志・澤田研太・井出哲哉・酒井義孝・井出いづみ・井出ゆきの・加藤朋美, 2023. 富山市吳羽陵のホクリクサンショウウオ. 富山の生物, (62) : 110-118.
- 19) Kameya, M., Watanabe, T., Nambu, H., Yamazaki, Y. 2024. Phylogeographic history of endangered Hokuriku salamander *Hynobius takedai* (Amphibia: Caudata). Zoological Science, 41(2): 177-184.
- 20) 金田正人・加藤卓也, 2011. 外来生物アライグマに脅かされる爬虫両生類. 爬虫両棲類学会報, 2011(2) : 148-154.
- 21) 木場有紀・坂口実香・村岡里香・小櫃剛人・谷田 創, 2009. 広島県呉市上蒲刈島におけるイノシシの食性. 哺乳類科学, 49(2) : 207-215.
- 22) 草間 啓・澤田研太・稻村 修, 2018. 富山県におけるハクバサンショウウオの新産地. 魚津水族博物館年報, (27) : 20-13.

- 23) 草間 啓・不破光大・稻村 修, 2022. 公募による富山県における淡水棲カメ類の分布調査. 魚津水族博物館年報, (31) : 43-50.
- 24) 草間 啓・澤田研太・亀谷三志・中田達哉・稻村 修, 2022. 富山県におけるハクバサンショウウオの分布と生息状況. 魚津水族博物館年報, (31) : 79-86.
- 25) 草間 啓・澤田研太・亀谷三志・稻村 修, 2023. 富山県魚津市におけるハクバサンショウウオの産卵地と生息状況. 魚津水族博物館年報, (32) : 31-38.
- 26) 松井正文・前田 憲男, 2018. 日本産カエル大鑑. 文一総合出版. 東京. 271pp.
- 27) 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・後藤優介・荒木克昌・小林周一・加藤智樹, 2013. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2012年). 富山の生物, (52) : 105-114.
- 28) 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・後藤優介・荒木克昌, 2014. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2013年). 富山の生物, (53) : 109-115.
- 29) 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・後藤優介・荒木克昌, 2015. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2014年). 富山の生物, (54) : 107-114.
- 30) 森 大輔・南部久男・澤田研太・福田 保・荒木克昌・草間 啓, 2016. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2015年). 富山の生物, (55) : 85-90.
- 31) 森 大輔・草間 啓・澤田研太・白石俊明・南部久男・福田 保・荒木克昌, 2017. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2016年). 富山の生物, (56) : 92-97.
- 32) 森 大輔・草間 啓・澤田研太・南部久男・亀谷三志・福田 保, 2018. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2017年). 富山の生物, (57) : 84-88.
- 33) 森 大輔・草間 啓・澤田研太・亀谷三志・福田 保・南部久男, 2019. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2018年). 富山の生物, (58) : 107-110.
- 34) 森 大輔・草間 啓・澤田研太・福田 保・亀谷三志・南部久男, 2020. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2019年). 富山の生物, (59) : 77-79.
- 35) 森 大輔・福田 保・井出哲哉・亀谷三志・澤田研太・草間 啓・南部久男, 2021. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2020年). 富山の生物, (60) : 95-98.
- 36) 森 大輔・福田 保・井出哲哉・亀谷三志・中田達哉・澤田研太・草間 啓・南部久男, 2022. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2021年). 富山の生物, (61) : 101-104.
- 37) 森 大輔・福田 保・井出哲哉・亀谷三志・澤田研太・草間 啓・南部久男, 2023. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2022年). 富山の生物, (62) : 123-126.
- 38) 森 大輔・福田保・井出哲哉・亀谷三志・澤田研太・草間 啓・南部久男, 2024. 富山県における両生類・爬虫類の記録(2023年). 富山の生物, (63) : 92-95.
- 39) 南部久男, 2019. 溪流におけるヒキガエル類の繁殖. 日本両生類研究会 20周年記念誌編集委員会(編), pp.69-75. 両生類に魅せられて～カエルとサンショウウオの長期研究と最新の研究～. 市民科学出版. 津幡.
- 40) 日本爬虫両棲類学会(編), 2021. 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版. 彦根. 234pp.
- 41) 澤田研太・亀谷三志, 2019. 富山市呉羽丘陵東側斜面のホクリクサンショウウオの繁殖地. 富山の生物, (58) : 90-101.
- 42) 澤田研太・草間 啓・亀谷三志・中田達哉, 2021. 富山県南部の一地域におけるハクバサンショウウオ *Hynobius hidamontanus* の生息状況. 両生類誌, (33) : 8-15.
- 43) 澤田研太・亀谷三志・草間 啓, 2023. 富山県朝日町におけるハクバサンショウウオの新産地. 富山の生物, (62) : 107-109.

- 44) 関慎太郎・松井正文, 2021. 野外観察のための日本産両生類図鑑. 緑書房. 東京. 227pp.
- 45) 関慎太郎・疋田 勉, 2022. 野外観察のための日本産爬虫類図鑑. 緑書房. 東京. 227pp.
- 46) 自然環境研究センター(編), 2019. 最新日本の外来生物. 平凡社. 東京. 591pp.
- 47) Suzuki, D. and Hikida, T. 2014. Taxonomic status of the soft-shell turtle populations in Japan: a molecular approach. *Current Herpetology*, 33(2): 171–179.
- 48) Suzuki, D., Yabe, T. and Hikida, T. 2014. Hybridization between *Mauremys japonica* and *Mauremys reevesii* Inferred by Nuclear and Mitochondrial DNA Analyses. *Journal of Herpetology*, 48(4): 445-454.
- 49) 富山県両生・爬虫類研究会(編), 1987. 富山県の両生類・爬虫類－自然環境管理計画策定のための調査－. 富山県農地林務部自然保護課. 富山. 66pp.
- 50) 富山県生活環境部自然保護課, 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブックとやま－. 富山県生活環境部自然保護課. 富山. 352pp.
- 51) 富山県生活環境部自然保護課, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブックとやま－ 2012. 富山県生活環境文化部自然保護課. 富山. 451pp.
- 52) 富山県生活環境部自然保護課, 2021. 令和3年版環境白書. 富山県生活環境文化部環境政策課. 富山. 272pp.
- 53) Yamazaki, Y., Kouketsu, S., Fukuda, T., Araki, Y., Nambu, H., 2009. Natural hybridization and directional introgression of two species of Japanese toads *Bufo japonicus formosus* and *B. torrenticola* (Anura: Bufonidae) resulting from changes in their spawning habitat. *Journal of Herpetology*, 42: 427-436.
- 54) 安田 晓・横畠泰志, 2015. 富山県内で秋～冬に捕獲されたイノシシの胃内容分析. 富山の生物, (54): 101-106.